

◎中学校完全給食実施に向けた検討状況について

1 検討組織等の開催状況

開催日	会議名称
平成 29 年 10 月 13 日	中学校完全給食推進連絡協議会【第 1 回】 ・検討状況の報告（基本計画の検討項目等）
平成 29 年 11 月 1 日	中学校完全給食推進本部専門部会【第 1 回】 ・検討状況の報告、課題の整理、基本計画の 検討項目等
平成 29 年 11 月 16 日	府中市立学校給食センター視察

2 各検討組織における質問・意見等（中学校完全給食推進連絡協議会）

* 「⇒」は質問に対する会議中の回答等を記載しています。

(1) 施設・備品

- ①中学校では人間関係の負担、ダイエットなどの理由で摂食を控えるなど、小学校では見えてこなかった複雑な問題が顕在化してくると思うので、給食センターにはアレルギーの相談だけでなく、食に関わる心の問題なども相談できる場所が必要になってくるかもしれない。
- ②食器について、現在小学校で使っている P E N 食器が良いと思う。見た目は食欲に対して重要である。手触りも少しざらつきがあり、小さな子どもにとっても持ちやすい。割れる素材だと割れた時の指導が必要となる。忙しい中学校現場での時間に関する影響も考慮すべきと感じる。
- ③ランチルームがある小学校で、トレイを利用している。トレイでは主食、主菜の位置、箸の向きや牛乳の位置が決まっており、5・6年生になると問題なく配膳できている。
- ④市内の中学校の教室に配膳台を置くのは、スペースの問題から厳しい学校もあると思う。配膳台も含め配膳時の動線も念頭に置くべきではないか。

(2) 学校運営

ア 食物アレルギー

- ①現在小学校では、保護者が弁当を持たせる場合もあるのか。
⇒現在小学校では、学校ごとにできること、できないことがある。
対応できない場合には、弁当やおかず一品などを持参していただく場合がある。
- ②中学校で弁当から給食へ切り替わることで、食物アレルギーを有する子どもと保護者は不安を感じると思うので、小学校の給食と中学校のセンター方式で食物アレルギーを有する子どもの引き継ぎをきちんと行う必要があると思う。
⇒センター方式のため、ある程度統一した対応をしていくことになる。その中で、個々の状況にどれだけ対応できるかがポイントとなる。
- ③養護教諭部会からも食物アレルギーの事故防止という観点から各校に専門的な職員の配置をお願いしている。

イ 給食指導

- ①他自治体では給食をすべて食べきるよう指導を行って問題となった例もあるが、本市の小学校ではどのような指導がなされているのか。
⇒給食時間マニュアルに基づいて1食分の基準量を目安に盛り付け、自分の体にはこのくらいの食事が必要であると把握した上で、食べきるよう指導するのが基本である。ただし、体格差や偏食、苦手な食べ物がある児童もいるので、6年生までに食べられるようになることを一つの目標とし、苦手なものも少しずつ、無理はさせずに徐々に食べられるような指導をしている。
- ②センター方式の場合、担任が、生徒の苦手なもの、食べられないものについての指導も行うのか。
⇒小学校の教員も給食時間マニュアルや給食指導について、夏季研修会を受講している。また、新規採用教員には、校内研修で栄養教諭や学校栄養職員が指導するなどしている。小学校で6年間指導をした上で、中学校へ進学するので、中学校の現場ではそこまで苦労しないのではないかと思う。

- ③栄養教諭や学校栄養職員を効果的に配置するとはどういう想定か。
⇒小学校では1人が2校を兼務している。中学校でも専門的な職員の配置が望ましいと考えており、全校に配置できることが望ましいが、それが難しい可能性もある。最大限に効果を発揮できる体制を整備していきたいという意味で、1人が何校かを兼務する体制が良いのか、センターに集約させた中でそれぞれ職員が集中的に対応していく体制が良いのかなどを検討していく。
- ④センター方式に決定したことで、学校が行うべき新たな業務、役割分担などの想定を提示していただけると現場もより具体的に考えることができると思う。

(3) その他

- ①安全・安心を掲げない自治体等はないと思うが、実際は守り切るのが難しいのではないかと。万全を期しても100点は難しいと思うので心配である。
- ②異物混入等の発生時の対応については明確になっていた方がよいと思うので、基本計画へ盛り込んでもよいのではと思う。